

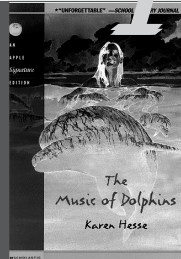
特集 洋書を読もう

ペーパーバックを一冊身近に備えておけば、ちょっとした空き時間にいつでもどこでも楽しむことができ、英語学習の助けにも。挫折しないコツは、自分に合った正しいレベルの本を選ぶこと。1頁に5語以上知らない単語がないことが目安です。



翻訳本を読んだだけでは決して味わえない言葉の微妙なニュアンスの違い、英語がもつ独特なリズム感、日本語には訳せなかった文化や習慣の違い。これらをダイレクトに味わうことができるのが、原書を読むことの最大の魅力です。ボストンは古くから文豪が好んで住んだ街。かつて数多の文学作品が生まれ、現在も優れた現代文学を育き続けています。あなたの周りに溢れるそんな洋書をもっと気軽に、毎日の生活に取り入れてみませんか。レキシントン町に13年住み、作家・翻訳家として活躍している渡辺由佳里さんにボストンならではの洋書の楽しみ方とお勧めの現代文学作品を伺いました。

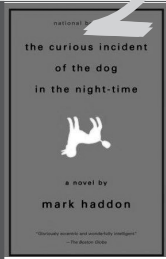
渡辺由佳里さんお勧め洋書六選



1 The Music of Dolphins

1998年のニューベリーメダル受賞作。飛行機事故の生存者でイルカに育てられた少女が救出され、人間の言葉と習慣を学んでゆくがイルカの家族と海がない世界は彼女にとって牢獄になる。主人公のMilaの日記のような語りで進むため、彼女の言語能力に合わせた単語とフォントが使われている。したがって初心者でも必ず読みきれることまちがいない。簡単でありながらも「アルジャーノンに花束を」を連想させる内容には感動を覚える。

初心者向
アメリカ人にとっては小学高学年向けの本。難しい語彙が少なく、初めて洋書を読む方にお勧め。Karen Hesse 作 181頁 サイエンスフィクション/ファンタジー Scholastic(1998), Oxford University Press(2004)



2 The curious incident of the dog in the night-time

アスペルガー症候群の少年が犬の殺人事件の犯人探しをするというヤングアダルト向けノベル。アスペルガー症候群の子供の心理をよく描いており、しかも心打つ物語。暗喩が理解できないアスペルガーが語っている一人称なので、理解しにくい表現がなく初級者にもお勧め。数学の話が出てくるところなどは、日本人には面白く感じると思う。2003年ウィットブレッド賞、2004年 コモンウェルス作家賞受賞。

初級者向
15歳少年の目線で描かれ、英語も読みやすい一冊。Mark Haddon 作 226頁 ミステリー Doubleday(2003), Vintage (2004)

洋書の世界に飛び込みましょう

渡辺由佳里

今の私を知る人は想像できないようですが、幼い頃の私は内気でよく苛められ、登校拒否になりかけたこともあります。そんな私の逃げ場は本の世界でした。小学校の教師をしていた母が読書好きだったもので、わが家には本があふれていました。今でも鮮やかに思い出すのは姉の影響で小学校1年生から読み始めた小学館の「少年少女世界の名作文学」です。現実の世界がどんなに嫌でも、本を開けばわくわくする体験ができるのが救いでした。

私たち姉妹は、「若草物語」「秘密の花園」「十五少年漂流記」「小公女」などに刺激されて毎日のように演劇のような創作遊びをしました。元のストーリーを離れて自分たちで作り上げる空想の世界で自由に外国を旅することができましたが、それだけでは物足りなくて実際にそれらの国にでかけることを夢見るようになりました。

大人になってその夢がかなっただけでなく、今は「若草物語」の舞台コンコードの隣町に住んでいるのですから自分でもときどきこの幸運が信じられないくらいです。ボストンはアメリカ合衆国でもっとも古い都市のひとつですから、「若草物語」だけではなく多くの文芸作品が生まれています。けれども、現代文学は日本人にあまり知られていないように思います。

たとえば、最近注目されている女優のKate Winsletが主役を演じた「Little Children」の原作者Tom Perrottaはベルモントの住人です。Lexingtonのタウンプールがこの本に出

てくるプールのモデルだという噂を聞いていたので、私にとってはそれも読書の楽しみのひとつでした。

Oprahのブッククラブに選ばれたベストセラー「While I Was Gone」の作者Sue MillerはSmith Collegeの教授です。映画化された「Memoirs of a Geisha」の作者Arthur Goldenはブルックライン、児童書作家として世界的に有名なLois Lowryはケンブリッジ、人気ミュージカル「Wicked」の原作者Gregory Maguireはコンコードの住人です。Maguireは、あまり売れない児童作家だったところに私の娘が通っていた小学校に創作を教えに来てくれていました。これも映画化され有名になった「The Namesake」の舞台はボストンで、作者のJhumpa LahiriはBoston Universityで創作を学び、ここで教えたこともあります。

このような文化の影響を受けたのか、企業でマーケティング部門の副社長をしていた夫が、「小説を書きたい。すでにテーマは決まっている」と言い出したのは約10年前のことです。アイディアはあるが技術に欠ける、と冷静に自己分析した夫は、creative writing (創作)の学校grub streetの夜間コースに通い始めました。

Eve Bridburgがひとりりで始めたこの学校はまだ創立後1年ほどで規模が小さく、短編ですら書き終えていない生徒がほとんどでした。Bridburgが自宅で催したクリスマスパーティで作家志望(だがまだ何も書き終えたことがない)の青年が村上春樹の作品を長々と分析していたのが当時の雰囲気でした。

その後夫は会社を辞めて独立し、マーケティングとPRに関するビジネス書を4

冊出版し、著作が22ヶ国語に翻訳されたベストセラー作家として講演で多忙な毎日を送るようになりました。彼がgrub streetで創作の訓練を受けたことや8年前に初めて自己出版したのが小説だったことを知る人はほとんどいませんが、grub streetとの縁は今でも続いています。**オ**ープンしたころには5人しか生徒がいなかったgrub streetも、私の夫のキャリアのようにこの10年でめざましく変貌をとげました。営利目的の学校は非営利団体になり、活動に関わる作家は約1万人にも増えました。高校生や高齢者対象の講座、出版方法の具体的な情報提供、会員のネットワークなどが加わり、ワークショップ、セミナー、朗読会など年間約150ものイベントが行われるようになりました。

もっとも目覚ましい変化は、講師と生徒の数多くが本を出版し、それらが全米ベストセラーになり、海外で翻訳され、有名な賞を取るようになったことです。

そのなかでも個人的に嬉しい成功例は(夫の作品は別として)、長年のgrub streetの講師で、夫の処女小説の編集を手伝ってくれたJenna Blumの「Those Who Save Us」です。最初に「Those Who Save Us」のハードカバーが上梓されたのは2004年のことで、私たち夫婦も出版祝いの朗読会とパーティに出席しました。その当時には大ヒットではなかったものの、ペーパーバックになって3年後の2008年にニューヨークタイムズ紙のベストセラーになったのです。

もうひとつの例は、grub streetの受講者Lisa Genovaによる「Still Alice」です。これは「早期発症型家族性アルツハイマー病」